

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ **学校力向上プラン【学校評価書】**

堺市立三原台小学校
校長 西村 和 裕

中学校区におけるめざす子ども像	自己肯定感が高く、他者への思いやりある児童・生徒の育成
-----------------	-----------------------------

令和6年度 重点目標	心身ともに健康で、創造力に富んだ 主体的な児童の育成（知・徳・体の調和のとれた児童の育成）	◆求める児童像	・考え工夫する子（創造性）	・協力する子（協働性）	・やりぬく子（自主性）
◇子どもに示す目標	み みんな仲よし三原台っ子（豊かな心の育成）	は はつらつと体力アップ三原台っ子（体力向上）	ら らくらくと読書 100 冊三原台っ子（読書活動の推進）		
◇教職員に示す目標	だ 誰とでも元気にあいさつ三原台っ子（豊かな心の育成） 総合的な学力の育成	い いつも自分で考え発表できる三原台っ子（思考力と表現力の育成） 子ども理解（特別支援と人権）	教師力・チーム力の向上	信頼される学校・開かれた学校	

「確かな学び」の現状 これまで堺版授業スタンダードの定着をめざし授業改善に取り組んできた。児童同士の交流や発表の場面が授業時にはよく見られるようになってきている。今年度は「学びのコンパス」が提示されたので、より主体的に児童が学習に取り組めるようにしたい。また学校群モデル校1年目で日本語指導に重点を置き、児童の語彙力向上が見られた。2年目、さらに学力向上につなげるために、中学校区でより連携を深め、「特別支援教育の視点に立った誰一人取り残さない教育」に取り組んでいきたい。全校的には、基礎基本の学習を繰り返す行うことや家庭学習・自主学習の定着に重点を置き、タブレット端末の授業時の活用についても前年度より時間を増やし、GIGA スクール構想の推進をさらにおこなってきたい。	「豊かな心・健やかな体」の現状 コロナ禍があけて1年となるが、集団生活になじめない児童の増加や体力低下がいまだ課題である。現在、個別の支援をおこなっていくことが必要な状況は多くあるため、今年度も学校群をベースに、また、外部機関とも連携し、特別支援教育に立った個別最適な学びの実現をめざし取り組んでいく。また協働的な学びを通して、子どもたちの「自己肯定感」「思いやりの心」を育てていきたい。大きな課題である体力低下の面については、全校あげて体力アップの取組をすすめたい。学校協議委員会でのご意見をもとに対策をとったり、授業時の体力づくりの準備運動を全校で共有したり、日常生活や家庭でできる体力向上の取組などを推進し、さらなる全学年児童の体力向上をめざす。
--	--

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 （●重点とする取組、★中学校区での取組）	判断基準 （評価のものさし）	評価方法	評価時期	進捗確認 （～9月）	達成状況（年度末）	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	考えまなぶ子の育成	子どもの学ぶ力を育てる	●児童の日本語力の育成と指導の系統性を意識した全員がわかる授業づくり。 ★主体性を意識した特別支援と教科学力の両面からの授業づくり。（学校群でのめあて「誰一人取り残さない、わかる授業づくり」の推進）	日本語力の育成に取り組んでいる。 系統性を意識して授業をすすめている。 国語の授業が好きと肯定的に答える児童の割合の増加	授業見学 研究授業検討会	年度末	◎ 階段に言葉の宝箱を掲示している。 1,2,6年で校内研究授業実施。学校群で日本語力の育成に取り組んでいる。	◎ 「国語の授業で文章を読むとき段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいますか」で、中学年肯定率(4月)78.8%→(1月)89%、 ◎ 高学年肯定率(4月)53.2%→(1月)82%、日本語力の育成に取り組んだ結果、子どもたちの「読む」の力に大きな変容があった。	◎ 高学年の肯定率が上がっているのは理解する力がついていると感じる。国語力向上のためにいろいろ工夫されていることは良かった。ことばから入っていく進め方はすべてにつながると思う。話の内容をまとめていく力は弱いと思う。
		基礎学力の定着	・授業の流れや自分の考えがわかるノートづくり。 ●基礎学力の定着を図る取組（家庭学習の定着） ●GIGAスクール構想推進（一人1台のタブレット端末活用の充実を図る）	8割の児童が自分の考えを文や絵図でノートにまとめることができる。 3年以上の学年で、週3回以上のタブレット使用。	授業見学 担任確認	年度末	○ きらりノートを掲示。堺版スタンダードに則ったノートづくりを行っている。	○ 全国学力テスト・IRT・わくわく問題の結果から算数科・国語科の領域別問題の正答率がすべて堺市平均を超えていた。(4・5年)国語科「書く力」算数科「数と計算」「変化と関係」の問題については堺市平均より下だった。(6年) タブレット3.2回。	○ タブレットを有効活用しようとしていることが理解できた。タブレットをできるだけ家で活用できるように宿題を工夫して出してほしい。またタブレットもいよいよ書くことの大切さを教えてほしい。
	生活習慣の改善	子ども理解	★集団になじめない児童の居場所づくりと、小中9年間を見通した児童理解・教育支援。（学校群2年目） ●いじめ・不登校の早期発見・早期対応につとめる。	校内支援委員会をもとに児童理解を深め学校群をも含めた組織的取組を行う。 いじめ・不登校への早期対応	学校アンケート いじめ早期解決 不登校数減少	年度末	○ 校内支援委員会の定期的開催で児童理解を常時行なった。リソースルーム継続により不登校早期対応を進めているが、少し増加傾向にある。	◎ 学年ごとに気になる児童の全体共有を毎月行なった。いじめアンケートの実施。管理職・生指主任・SSW を中心に各教員が協力対応できた。代表委員会のあいさつ運動は毎週水と月初めの金に欠かさず実施。図書室には定期的に新刊が並び、読書環境が整っている。PTA 読み聞かせも実施。みんなくアンケートと面談実施やみんなくアプリの活用を行い児童に啓発授業も行った。	○ 個々の課題に合わせた取組は難しいかもしれないが、課題ある子にとってはとても重要なことなので少しでも近づけていっていただけたらと思う。本を読む大切さを子どもだけでなく親にも共有していってほしい。みんなくフォーラムを初めて小学校で実施したり、昼寝タイムなど子どもたちと一緒に新たな取組をしてきたのは評価できる。
		基本的な生活習慣の定着	・自分からすすんであいさつする子どもの育成 ・「読書活動（全校一斉朝の読書タイム）」の充実 ★「みんなく」「家での7つのやくそく」を軸とした生活習慣の改善。（学校群をベースに取組む）	あいさつ運動の啓発・取組 図書館教育の推進 みんなくアンケート実施分析 みんなく授業・児童への啓発	堺市児童アンケート調査	年度末	○ 毎週水曜日のあいさつ運動実施。朝の読書タイムと読み聞かせ実施。 ◎ 6/4にみんなくフォーラムを本校で実施。全クラスで公開授業を行った。	○ 復数クラスで1月に計測をしたところ計測したすべての児童に敏捷性の記録向上がみられた。 ◎ 休み時間にマラソンや握力測定に取り組む児童が増えた。	○ 休み時間を利用して体力アップの取組は良いと思った。来年度もぜひ続けてほしい。体力テストの記録を6年間通して残せるものがあれば振り返りができると思う。
豊かな心・健やかな体	体力向上	体力アップと子どもの体力向上に対する意識の高揚・運動量の確保	●体育授業での基礎体力向上に向けた全校での取組。 ・主体的に体力向上に取り組む子どもの意識づくり。 ・委員会中心に外遊びをする子どもを増加させる。 ・家庭と連携した体力向上の取組。	柔軟性の計測値アップと反復横跳び(敏捷性)の記録向上が図れている。 自主学習としての体力アップに取り組む児童の増加	スポーツテストと1月での計測値比較 学校教育自己診断アンケート	年2回計測時 年度末	○ 体育授業の初めに全学年共通の曲を流しての準備運動を実施中。 ○ 体力測定に向け、休み時間に握力測定や反復横跳びの練習を自主的にした。	○ 防災教育に地域防災士をまねき保護者も加わり4年生で出前授業。1～6年で命の授業や性教育を実施できた。小中合同でクリーン作戦実施予定。学校群で3校の合同研修を12回実施。幼保小連携でワクワクひろば実施。	○ 子どものみだけでなく保護者をも巻き込んだの出前授業をしてあげてほしい。特に防災教室の案内は全保護者にできないか。自治会・地域会館との交流は続けてもらえるとありがたい。小学校以外とのつながりは大切。
		家庭・地域連携	・HPや「学校だより」等による情報発信。 ・堺版地域コミュニティスクールの体制づくり。 ・地域行事への協力・積極的参加。 ★幼保小中連携の「みんなく」の取組を行う。 ・幼保小中の交流と連携を行う。	HP毎日更新し、アクセス250以上。 地域人材活用、出前授業の実施。 地域行事に協力・参加。 みんなくリーダー研修参加。 幼保小中の交流(ワクワクひろば等)。	HP毎日更新 出前授業複数回実施 地域との交流増加	年度末	◎ HPは毎日更新、地域人材活用で防災・いのちの授業、出前授業も実施。地域清掃活動で学校の清掃実施。 ○ 学校群・みんなく推進委員会での幼保小中の交流と連携を進めている。	◎ 防災教育に地域防災士をまねき保護者も加わり4年生で出前授業。1～6年で命の授業や性教育を実施できた。小中合同でクリーン作戦実施予定。学校群で3校の合同研修を12回実施。幼保小連携でワクワクひろば実施。	○ 子どものみだけでなく保護者をも巻き込んだの出前授業をしてあげてほしい。特に防災教室の案内は全保護者にできないか。自治会・地域会館との交流は続けてもらえるとありがたい。小学校以外とのつながりは大切。

校長より（年度末） 学校群モデル校2年目で、3校(三原台中・泉北高倉小・三原台小)がともに特別支援教育の視点を持ち、9年間を見通した教育の実践に取り組んできました。特に授業改善・学力向上については、昨年度から引き続き、大教大の臼井教授の指導のもと「すべての子どもたちがわかる授業づくり」をめざし、共通の指導の仕方(教科の系統性・語彙力の育成・レディネステスト)を学びながら3校の交流を深めることができました。体力面では低下が課題であったので、体力アップの取組を年度当初より行い、継続して体力向上の意識を高める取組を行ってきました。児童が主体的に取り組む姿が見られました。生活・総合学習では外部人材を活用し、防災教育や健康教育、国際理解教育などを実施し、児童の総合的な学力の向上やいじめ防止対応に努めました。さらに学校行事や地域行事、幼保小中連携で、児童の積極的な参加により、多くの児童の活躍の場を持つことができました。	学校関係者評価者から（年度末） 国語の力をつけるために学習した言葉を掲示したりいろいろな工夫をされていることは素晴らしいです。体力アップの取組は継続してお願いします。また保護者・学校・地域の連携を密にできるような体制構築をより一層深めていただきたいと思います。学校群の連絡調整は大変だったと思いますがより推進に尽力していただきたいと思います。
--	--